

□ シンポジウム

「既存鉄骨建物の耐震性を考える」

主催 日本建築学会中国支部構造委員会

日本鉄鋼連盟中国地区サブネットワーク既存鉄骨建物の耐震性小委員会

協賛 (社) 日本建築構造技術者協会・中国支部

地球環境問題の改善、建設予算の縮小による既存建設ストックの有効利用などを目的として、鉄骨建物の長寿命化が強く要求されている。その一環として、これまで(社)日本鉄鋼連盟中国地区サブネットワーク「既存鉄骨建物の耐震性小委員会」と日本建築学会中国支部構造委員会耐震実験小委員会(鉄骨関係グループ)が協力して、既存鉄骨建物の耐震性調査および耐震性能向上に関する研究を継続して行ってきた。既に2005年11月に第1回目の成果発表会を開催している。そこでは鉄骨屋内運動場の解体工事に関する調査、鉄骨屋内運動場の耐震診断結果を整理した耐震性能調査、瀬戸内海沿岸に建つ鉄骨建物の腐食実態調査と腐食部材の耐震性能実験、鉄骨屋内運動場より採取した柱梁接合部、筋違接合部、露出柱脚の耐震性および補強効果の確認実験などを報告した。その後も研究を継続してきたが、2007年度に(社)日本鉄鋼連盟の支援を得て再度中国地区サブネットワーク「既存鉄骨建物の耐震性小委員会」を設置し、支部構造委員会と協力して活動を行うことができた。本シンポジウムは前回以降の約4年間の活動の成果を報告するものである。

日時： 2009年11月28日(土) 13時～17時

会場： 広島工業大学広島校舎

広島市中区中島町5-7 TEL 082-249-1251

広島校舎は平和記念公園そばにあります。広島工業大学の五日市メインキャンパス内ではありませんのでご注意ください。

プログラム

司会 福山大学 南 宏一

(1) 開会の挨拶

社団法人日本鉄鋼連盟 建築委員長

藤澤一善

(2) 趣旨説明

広島大学 松尾 彰

(3) 成果報告

1) 圧縮座屈を生ずる筋違材の許容残留変形に関する一考察

根口百世(福山大学)、尾熊政男、石原節夫、南宏一

2) 自己歪応力による既存鋼構造物の損傷調査とその損傷が鋼構造物の耐震性能に及ぼす影響の評価

寺岡勝(呉高専)、仁保 裕

- 3) 腐食部材および接合部の耐震性能に関する実験的研究 松尾彰 (広島大学)、澤田樹一郎、加藤巨邦
- 4) 既存鉄骨造露出柱脚アンカーボルトの耐震補強 松尾彰 (広島大学)、澤田樹一郎、加藤巨邦
- 5) 新鋼材を使用した制振ブレースの弾塑性挙動について 中山昭夫 (福山大学)
- 6) 炭素繊維プレートで接着補剛した合成梁の載荷実験 玉井宏章 (広島工業大学) 高松隆夫
- 7) 楔デバイスによる鋼構造の耐震・制振工法 高松隆夫 (広島工業大学)、玉井宏章

(4) 閉会の挨拶

中国支部構造委員長 山本春行

**参加費**：無料

**問合せ先**：広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻 松尾 彰

TEL & FAX 0824-24-7799 E-mail [matu12@hiroshima-u.ac.jp](mailto:matu12@hiroshima-u.ac.jp)